



あきやま よしたか
秋山 仁孝

福岡市道路下水道局
水環境整備部下水道計画課
技術開発係



みやはら せいじ
宮原 誠二

京都市上下水道局
下水道部設計課施設係長

◆これまでの経歴は

平成6年度の中途採用で福岡市に採用され、当時の土木局道路計画部に所属し、約4年半の間、都市高速道路建設における地元対策や道路計画に携わりました。

平成11年度に港湾局へと異動となり、人工島の埋立事業に4年間携わった後、平成15年度からの3年間は区役所において、まちづくりの企画業務を担当することとなりました。この期間、土木業務はほぼ皆無で戸惑うことも多々ありましたが、地元の方との共働によるまちづくりなどから多くのことを学びました。平成18年度より現職場へ異動となり、入庁後13年目にして、初めて下水道事業に携わることとなりました。

◆現在の担当業務は

現在、下水道計画課に所属し4年目になります。最初の2年間は、開発行為における排水や雨水流出抑制に関する指導を担当し、昨年度からは、汚泥の処理処分計画の見直しに携わっております。これまでは、埋立地の確保が困難であることや、リサイクルの観点から、可能な限り、緑農地利用や焼却処理後の灰を建設資材の原料とすることで、全量有効利用を図ってきましたが、コンポスト製品の需要低迷や近年の公共事業の減少等より、安定した供給先を確保することが困難になるなど、汚泥処理処分を取り巻く環境も変化してきました。さらに、地球温暖化対策として、下水処理における温室効果ガスの削減が重要視されているのは、ご承知のとおりです。

このような社会情勢のもと、安定した需要が見込まれ、温室効果ガス削減にも有効と考えられている下水汚泥の燃料化など、新たな処理処分方法を調査しながら、汚泥処理処分計画の策定に取り組んでいるところです。

◆今後の抱負をお聞かせください

新たな汚泥処理処分計画の意義や新たに導入される施設の事業効果について、市民の皆さんに十分理解していただけるよう、わかりやすい計画づくりを心がけたいと考えています。

◆これまでの経歴は

平成11年に京都市に採用となり、当時の下水道局施設部施設設計課に配属されました。そこでは主に終末処理場及びポンプ場の設計業務に7年間従事しました。その後は上下水道局下水道部計画課で1年間、下水道事業計画に係わる検討業務に取組み、(財)下水道新技術推進機構への2年の出向期間を経て、本年4月より京都市へ復職し、現職に至っています。

◆現在の担当業務は

現在は、採用当初に従事した職場に戻り、設計業務を行っています。現在の主な担当は、水処理施設の改築・更新に併せた高度処理施設の導入、効率的な汚泥集約化を目指した事業の推進に係わる設計を行っています。

◆本機構で行った仕事、本機構の事業活動についての意見をお聞かせください

平成19年より2年間、機構にお世話になりました。その間、民間企業との分流式下水道における雨天時浸入水対策に関する共同研究や、地方自治体からの受託研究として、水理模型を用いて流下型貯留管で発生が懸念される水理現象、空気の挙動の再現とそれに基づく対策の検討、雨水の流出抑制やノンポイント負荷削減を目指した貯留浸透施設の検討業務等に携わりました。

私の下水道機構への出向は、京都市より初のことでした。また学生時代以来、久々の一人暮らしと慣れない街での生活に加え、新たな業務や環境に戸惑いながら、日々無我夢中でこなしてきたのを思い出します。

下水道機構が掲げる「新技術の橋渡し」は、当事者間の二方向の行き来だけではなく、国や自治体、民間等様々な組織や団体とのネットワークが構築されています。下水道に関する様々な情報がこのネットワークを通して下水道機構を経由する、このことが技術力と信頼を支えていると思います。今後、下水道機構の役割はますます多岐に渡り、他分野との交流や関連事業との連携等、活躍の場が広がるものと思われます。下水道機構の更なる発展を期待いたします。